

刈谷市中心市街地まちづくり基本計画

2018年度～2027年度

概要版



計画の目的

本市は、古くは刈谷城（城下町）を中心に、近年では刈谷駅と刈谷市駅の2つの鉄道駅を中心に発展してきたまちです。現在では、全国屈指のものづくり産業の拠点都市として、自動車関連企業の就業者をはじめ周辺市町からも多くの人々が訪れるまちとなっています。特に、刈谷駅は、1日あたり約95,000人が利用する衣浦定住自立圏の中心市の玄関口として、重要な都市拠点の役割を担っています。

今後も、刈谷駅や刈谷市駅周辺を含む中心市街地が、将来にわたり持続可能な発展を続けるため、各種事業を進める必要があります。

そこで「刈谷市まちなかマネジメント構想（2016（平成28）年度策定）」を踏まえ、中長期的な視点に立ったまちづくりに関する基本的な整備方針を示すことで、中心市街地のさらなる魅力と回遊性の向上、活気とにぎわいの創出を図ります。



中心市街地の特性

2つの鉄道駅を核に発展してきた 中心市街地

刈谷駅と刈谷市駅の2つの駅を核として発展してきた中心市街地は、時代の移り変わりとともに変化し、現在は、それぞれが異なる特性を有した地域を形成しています。



刈谷市駅から亀城公園までの一帯は、刈谷城とその城下町であったことから豊富な歴史的・文化的資源が見られ、今後、まちづくりを進める上でポテンシャルの高い地域です。



商業、公共公益施設が集積する 刈谷駅周辺

刈谷駅周辺は、商業・業務機能の集積が進むとともに、市役所や合同庁舎などの行政機関、総合文化センター、図書館・美術館などの文化・市民交流施設が集積する地区です。



時代の移り変わりの中で店舗が減少し、商店街の衰退が見られる一方、マンションなどの共同住宅が建設され、駅に近い、利便性の高い住宅地としても活用されています。

多彩な歴史的・文化的資源が集まる 刈谷市駅と亀城公園周辺

商業地から住宅地へ 変化してきた地域

歴史と未来が輝く 刈谷まちなかオアシス

1 引き寄せられるまち

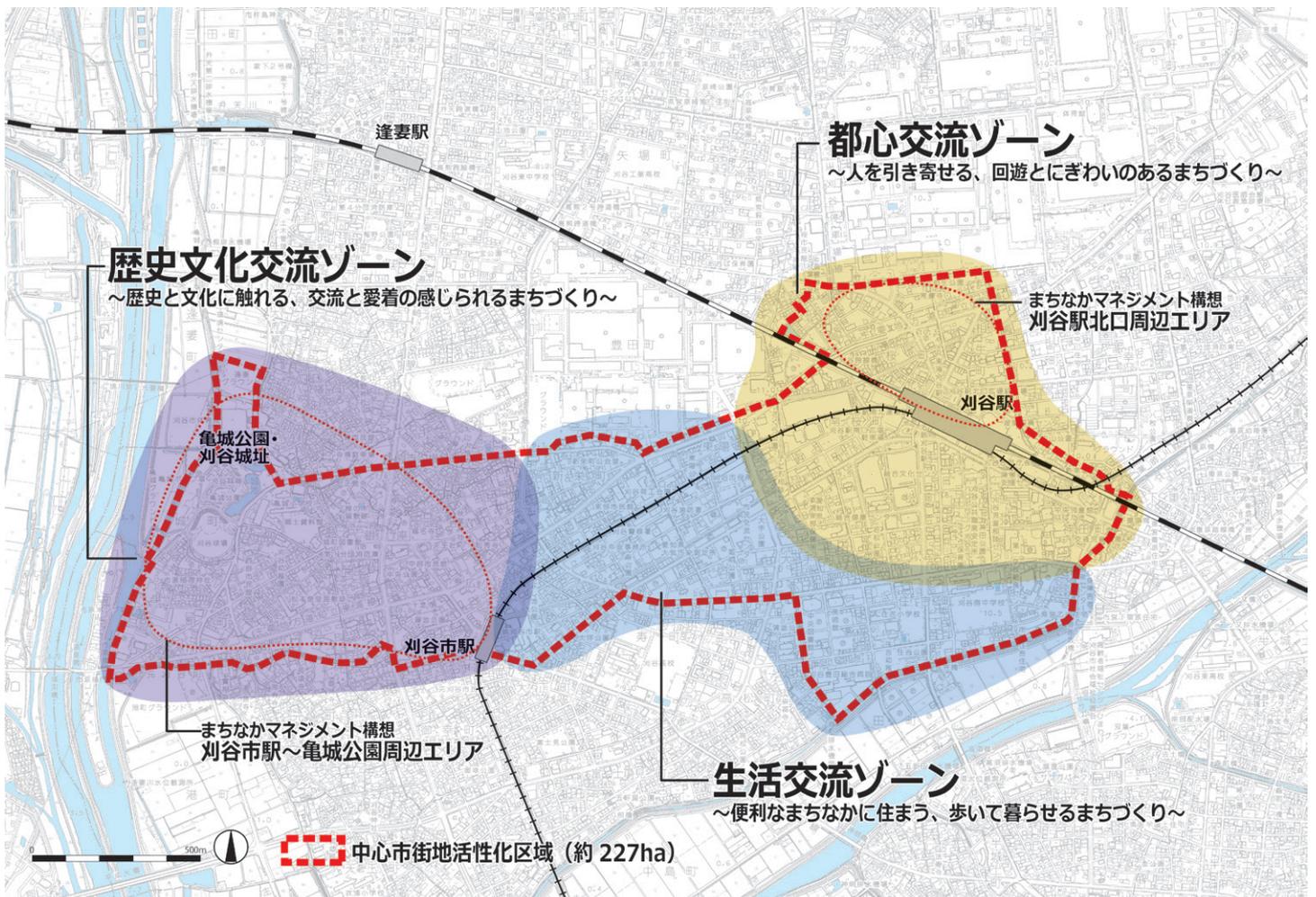
魅力的な活気とにぎわいがあり、市の「顔」にふさわしい洗練された都市施設を形成し、歩いて楽しい多くの人々が集うまち

2 便利さを享受できるまち

ゆとりと安らぎを感じられる住環境の形成と快適な暮らしを支える都市機能・生活機能が充実した、安心して暮らし続けられるまち

3 愛着を感じられるまち

貴重な歴史的資源に光をあて、それらを後世に受け継ぎ活用することにより、一層の魅力と親しみがあふれたまち



基本的な整備方針

1 都心交流 ゾーン

人を引き寄せる、
回遊とにぎわいのある
まちづくり

市の「顔」として、市内外に誇ることができる高次都市機能を備える駅前空間づくりを目指します。

また、地域住民、就業者、学生、来訪者の誰もが、集い、回遊しやすい活気とにぎわいのあるまちづくりを目指します。

2 生活交流 ゾーン

便利なまちなかに住もう、
歩いて暮らせる
まちづくり

2つの交通結節点をつなぎ、市内の循環とともに市外各所との交通利便性の高いまちづくりを目指します。

また、公共施設等の立地特性を生かして、歩いて暮らせるまちづくりを目指します。

3 歴史文化交流 ゾーン

歴史と文化に触れる、
交流と愛着の感じられる
まちづくり

刈谷の歴史・文化に触れる地域への「玄関口」として、市民や来訪者などにも優しい駅前空間づくりを目指します。

また、歴史に触れる楽しみや愛着、交流を育むことができる環境づくりを目指します。

計画の推進に向けて

地域住民・事業者等の役割

- 地域に関心を寄せ、愛着を持ち、まちづくりの主演として率先して参画する意識を持ちましょう。
- 各主体がそれぞれ積極的にまちづくり活動に取り組み、より良い知恵を出し合うなど、まちづくりに関する情報交換の場や機会づくりに努めましょう。

市の役割

- 地域住民や事業者等の各主体がまちづくり活動に参加できる仕組みづくりを進めます。
- 各主体と連携し、公共空間で交流とにぎわいを創出する体制づくりを推進します。

